HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	国民社会の研究 第20巻
Author(s)	鈴木，栄太郎
Description	国民社会の研究各論 第4章 ： 国民社会の社会構造 『鈴木榮太郎著作集 7（国民社会学原理ノート）』を出版した際のソースとなった原稿である（同書内での言及による）。
Issue Date	1962-06-16
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77581
Type	manuscript
File Information	I023_0120.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

20

コクヨ

意匠登録
No.151492

A
30
ノ
353

NOTE BOOK

CONTAINING BEST RULED FOOLSCAP

國民社會の研究

第二十巻

昭和三十八年七月十日

コクヨ

20

目次

日本における最良語學と最低の語學

日本における[illegible]の近代と[illegible]

經濟組織[illegible]

口[illegible]

北[illegible]

劉[illegible]

余の[illegible]とマートン[illegible]

[illegible]

論[illegible]

國民[illegible]

生產の[illegible]

馬[illegible]

36年3/19 [illegible] 12 9 7 6 3 1

日本における最高の階層と最低の階層。天皇の階層は最高の階層、水平社の階層は最低の階層。一般の日本人はその中間に位して、ある者は最高により近く、或る者は最低により近く、すこしづつお互に異り、幾つかの程度の不同を保ちあっている。階層を構成する要素は家柄身分の條件によって作られ[illegible]の維持も又これによりかかる。[illegible]身分の無い[illegible]縁関係又は系統的由緒の十分さと言う二つの両様は[illegible]一[illegible]の如くに最高の[illegible]を[illegible]いて、同一人の意識の内に[illegible]の存在を許容している。これは日本人の意識の中の広さが併存して[illegible]いる。これは日本人の階層構造[illegible]

ハ

最高の
され僕らが道が近づかない一つの村
と同様に近づきたい人使ニハ最低ハ
柄を通じて〔手紙〕か来人正馬唐ナ、達人
て居る。二つの村を関係に示めない、ば
とかく色々な方面からも研究
時す、特異な雰囲気、純な文化の価値
がないこと[illegible]ことが無い、ナハ人
こんにちハ国民の心の在っていた
明るさを招致する方策も考えら
れ得ないこともない、二つの村がある国
は日本の空は晴れ渡ってはいない。

最高の位置と最低の位置
最古の文化と最新の文化
最富の人と最貧の人

日本における最古の文化と最新の文化

日本には新旧の文化が並存してゐるが別にするとく命するのでない。新しい文化は今年になつて出来たばかりで、その最古のものは平城京での前の時代のもの、新しい文化は人命、宇宙生命に[illegible]が映画館、劇場、オフィス、工場生活に見られる。最古の文化は短歌の形式、五七五七七の韻律が千代来何んのこれは万葉の古形が変りない短歌の韻律である。又オリンピックの開会式に於ける[illegible]の工場建設の地鎮祭の各種式祭事の祝詞祭、新嘗の神楽、宮廷式 神饌

ろ

以来の生活であり。大道無者の今は
皆有の[illegible]しい小さい[illegible]に容[illegible]は[illegible]つゐる
し今日の全般の層の中に[illegible]十字する
の吉凶がパイさい小年　今や十分によう
吉凶やがて[illegible]さからいる。平安の
代の日本人の心は[illegible]らしい。
我国とかつてそれは大いに古旧と共に
大和の国居であり[illegible]の中の国
居せしめて強い不安を感ずるのは
いわ日本人の心のなくやしさに根強く
外はない。
階層的な上下の正らしい対立もその
のまゝに存するので、日本人の心に

47

我々の姓で正しい、対立して其のまゝに名前

こんにち日本の霊学と云はれる

~~気~~神経などというには日本人のよくされ悪いさ

もとづく根拠があるわけではない。

不幸な人にどんなに多く不幸が

重っても、それを運の悪い人、偶然だと

割り切ってあっさりあきらめるのかは本人

であり、幸運な人にどんなになく

幸運があまっても、それを何とか

人と見る丈で、別に大きいな差や

んだり怒ったりする事ほどのしや

人の人かよいのか悪いのかよく分から

ぬと云うには本人の持つ才能がある

か

七月十二日

統治組織に於ては擬制的に家長（戸主）であり
家長（戸主）への孝の態度は王に対する態度へ、
忠誠を要請した。それは政治的の強化に外ならない
政府の機能は倫理へ直接に立つのであっ
た。
戸籍の上には戸主が一切の権利
義務があり、それに代って家が之に従い
支配層は統治していて国民は隷属的
かの戸籍（戸主）の下にあって全国民が
の一人一人を支配者の直轄の下においてい
この組織はまた一つの官僚制と相補うて
全体的構成になるのである。

[illegible]は[illegible]いて[illegible]

口[illegible]従[illegible]

一定の[illegible]内 生活の[illegible]

[illegible]

[illegible]

口家ニ八[illegible]人に[illegible]

使用[illegible]

[illegible]

[illegible]

團体活動 口家と呼ばれる。

口家を[illegible]一つの[illegible]人々

口民といふ。形成の[illegible]何かの[illegible]

口家の本質は口民である。

口家権力の方針は個人の[illegible]

家の内外の如何なる人からもその

支配を[illegible]強制されるものではない、

口家は[illegible]存在を要求する一つの口家の機[illegible]

1

は国民に対する統制と国土整備の上に
の保持振りは三百年にわたり日本の保
四面環海の我が国土の何たるかを知らず
けば人口食糧の如きは甚だ不均衡に陥ったが
あった当時日本は鎖国の如き結果
の如き有利なる官僚的機構はあったが
国民は一層之に隷属せしめられたのである

デュルケーム（1858－1917（大六））
スペンサー（1820－1903（明三六））
マックス・ウェーバー（1864－1920（大九））
パーソンズ（1902－（明三五）　）

それら自然作用は人工的技術と日長の
合理的[illegible]、人々の生活における[illegible]初
期の社会生活をかたちづくるとともに出現
社会有機体説と呼ばれる[illegible]
根拠として感覚によって
上げられ、常に成
スペンサー[illegible]のすべてへ経
取り出したという形式社会[illegible]
具体的全体からはすべて等質な
そして次世に初期への[illegible]があるか
たすけて消滅していった。[illegible]
形式社会学の一人[illegible]の若い
関係のあり方は距離は大きくして行
も生産するしへる経済は何
9

あるが、一定の発展的内容の上に存在物を破壊せんとするマクスウェーバーの態度を代弁している。今、各人の行為基準や価値体系の相互関係の上に社会的平衡を認め基礎的社会体系〔パーソンズ・[illegible]〕を見出した。パーソンズの場合は「機能」の概念で基礎的社会系統に対決しているのである。スペンサーは基礎的社会系統としての国民社会を所与のものと定めその構成を説明する為に部分を追及していた。パーソンズは部分的な人々との

10

国連の退化の最后に派な様子を見せた。その様子は回帰全体制であつたかつてスペインをかられた殺伐すき学生より分析の対象の世ではないのである。私は戦後数回の政治的全面闘争より陸続の遮断活動の破限の上に具体的意識的意を限めされを回民党より作つけた。政治的国連からも変な団結している。その破限の上には外を基礎とする限めたずまわぬ限界を越えるから記めたのである。政治的な団結の意見の追

及び第一では回路の遮断器の確保が第二で、電信系統作動の調節が大切である。電気系統作動の中心は如何なる集團が[illegible]局部支配的であるか、又その集團等の間では追及の門を開いたり。集團相互の関係は、静的平衡安定のためには一段集團の綜合的組織はどんな配列を必要とするかなどの問題である。それは回路内の設備的統一の施策によって実現し得るのである。

七月十七日

13

都市に存する機関

都市に存する機関の最も多くは職場としての機関であるが、生活拡充集団の活動の本拠としての機関もある。組合活動の本拠又は集会所と商議所としての機関などが多いである。それが結節機関に属すものである事は当然である。

七月二十六

全の社会構造とマートン流の社会構造の
別！~~を明らかにする必要~~と認識の存在価値
両者は同一の文字を用いてはいるが
根本的に異なるものを意味していること
を組織的に説明する必要がある。
相異するところは何にあると思ふか。
マートンは社会構造の中に認める
社会的統一体とその統一体を構成
する個人各々の関係を見る。これ丈の
材料の上に社会構造が築かれる
其の社会構造は其の統一体の中における
各個人の地位と職能分割を見せず
兼ねよって破壊されぬ。各個人の地位
と役割の国家性の強弱の所及ん客観的に認めらる

可能性の程度にも同化がある。私の心的構造は右の心的統一作用の内に働いている各種の集団の機能と構造の総合的結節なり。その集団の如何なる機能がこの統一作用の共で各真に決定的な力を持っているか或いはどの集団構造が文字め統一作用の構造における骨組の役をしているかを明らかにしているのである。日本の国民教会については考えれば、マートン流の心的構造によって理解を進めて都会と農、場合十あり、私の心的構造によって規範を通して都会と農村場合がある。全国民の各組についてその地位と役割作

ゆくへは
日本国民の大多数はいつも最高と最低
は明白な事実として認め合つてゐるもの
[illegible]
ある。

を合せて兼備し得る生き方には、ならない
といふ考察は~~本~~統一するといふ基本がない。
最高の形に天皇、最低の形に~~[illegible]~~平
民を認めるのに、民は民のべきに
ゝーに存する（おける）鎌倉武家デモクラシーの体系の存在す
確かに、日本国民は最高最低の
両極に生存してゐるかのやうな、七百年の
武家の保存が限定せられつつ、（大儀式は、無力化が行はれ、）文官
徳は高くして天皇のみに、日本人はや。
特殊の特権をもつものとなつた。すく状
解されなければ。
けれども日本国民生活の活力~~本来~~の絶えずすなはち
表面を占有する~~構造上~~の変化~~を~~の常手段
くる

をなしている集團が此の如き集團であるか
は集團そのものの機能と構造と組織的
統制によってなしかも何れなるか。大概
權の意志機關が縱にも横にも他の大
小の機關と關係して民生を明るく
も暗くもしているのは見出すつもりであ
るか

統治の機關によって同様の働きをな
するものは多くの場合が物資について
國民政府の生活活動の整備者か
發展を指導しているものは太の
意志機關と政治機關の活動
の如何であるとは一應考へられます

18

ては居ない。これは重要な問題という気分
吟味を必要とする。
併しながら国民精神性の構造なる者
凡有る底面を中に組織して〔構成を除けば〕国民の
全ての実的発展を指導している訳
国民性が構成する集団である。一私の説
合構造に極分によって何に国民各
に存する一切の集団の統合的能
しなければならぬ。これは可能か。
へこの目的に対しては一寸との少々困難せし
破壊は全くなかつてあると思はれる。

一月一日

都市は国家に小さな縮型である。構造においても組織においても都市は国家の小さな縮型である。国家が国民に対する経済構造の組織体たりえる所の都市も同様な関係に対する関与構造と組織体たりえる。経済活動が家庭生活の全領域に及んでいる様に関与活動も国家と関与国民の生活の全領域に及んでいる。経済活動は関与活動の一部分に過ぎない。

国家の経済活動はその中央機関

19

一方では

である政府が考えられ、~~首都の~~政府の所在地

である首都は直接には考えられな

い。

都市の国家活動は国家国の行政

官庁を含んでいるものではあるがそれ

その国の集合している土地である

都市が考えられるより大で行政官庁

も附へ重要部分ではないか

政治をよりしへ上がる日本の構造が

国民生活の常識をなす国家を中

そしてそれは都市の構造が国民生

活の常識を成している。

2012

12. の都市は皆其の国家圏の

上に成長しているということは行政機関が特に中心的機関であるとはいえない、国家は中央機関の中特に行政機関の上に成長しているのである。中央行政機関のある首都と地方行政機関のある地方都市とは政治へのかかわりかたがかなり異っている。都市は必ずしも行政の縮図ではない。然し首都は行政の中心であるために特に重要性がある。

日本の首都は都市活動の中心であると共に政治活動の中心でもある。国民生活と政治活動と国民生

ちの都市活動とを分けて考える

中心都市である。都市活動とは文化

的都市と云ふ事である。政治活動

とは支配活動を意味する。都政

形態は中都市以下の都市に於ける

政治の実体（組織及政治運営）は首都等に於いて

凝集させるのである。又人口の実態生活

を反映している政治活動は政治組

織の最末端と住民との接触

面に現象するのである。

日本の凡ゆるの都市は首都を頂点とす

位置の階層の中にどの一つの

都市も一定した座席をもつ

役割を期待されている。くてとの都市もその国土圏内における全集落社会の拠点の位置をしめておくその役割を期待されている。それは全国民社会における首都に比すべきものである。との都市もそうであるは都市そのものが国民社会における首都の縮型であるする意味する。首都がその市域の外に国土圏としての全国土（一国内の都市集落）を有するように地方の都市もその市域の外に国土圏内の全地域の集落社会を有して

首都と都庁所在市は
る。共に各の市域内各の行政庁（都庁）
があり外に全国に号令する全中央官
庁がある。之に比すべき地方市役所の
外に各の周辺圏である都内に号令す
る都庁がある。
県庁所在市以外の市は之れらの
官庁は異っている。各の市の各の市役所
があるが、各の市の周辺圏に号令する
官庁は存しない。
の或る意味で都庁所在市と首
都は同様の性格が認められるが之
以下の十市は之れと全く性質を
異にしている。

或いは日本の市は首都と~~首~~邑府県庁所在都市とその他の市の三種に区分さるべきである。その他の市の内で町村役場所在の町又は市が其の管轄区域内の集落社会に対して同様なの立場にある場合は多いであらう。むしろそうでない場合が異例とも云へるかも知れぬ。

そうして見れば全国を支配する政治力の中心の存する宗その他の諸の機能の都市即ち首都の機能は何れの都市にも見られるのではないのか。従って都市はその配下にある集落社会を包含

〈そのもの

し支配しそして搾取する口実の創
生であると云えるのではないのか
（八月号
[illegible]的諸国一般の支配性搾取性
的法性を同化はする必要かありなし
ろって考へれば矢張資本の不可避的
統合性と云ふ表現が経済性より
のこと実は近いのであるが
的に外の部や未来の部分の性質一を
考へていたが、旅より分れて構造に
至る関係であるか、機能構造的に把えて
そこから次第に合体して行く関係
即ち未だ中心に向ふ関係として

それは統合である。前者は中心より流れ、後者は末端より中心に向かう関係である。前者は専制政治的、後者は民主的である。私の都市論の方針からいへばなるべく後者であるべきである。

私としては実際の国家の強引な国家は国民の（集まって）一人一人の活動が合作して上に向って行く方針によるよりは強となく、上が下に遠く出すものが結即ち五角にて分けたされる場合が一般である。かういふやはら都市の根柢としては上からのものを中心分けして

く分断固定戦場として論ず可き

である。

分け込み戦場入りし、の都市の分割り

分け込み操作の手数料の範疇に

って掠奪的にも見えるし賎業の様に

見られる。都市は結節として見つ可き

で掠奪的と解す可きのは之等に

様あるのである。

国家の機能も（即ち分割り込み分け

操作には外ならぬ。□民大衆の手

発展の□民の為に内外の妨碍勢力

より防備する活動の□民に対する

統合、□民の生活協力の為の活動の

既存の寺の年令別地域別仕分け
的な仕事が日宗の役割と考える。
そしてこの仕分けされた各役割りを日
民が正しく実行するために指導監督
するのも日宗の機能である。
現代日宗の列にある日宗は一応右の如
き機能を果す様に制度が整備されて
る。けれどもその制度の中で[illegible]い野
望な僧侶が生きているのも事実で
日宗の制度が半身不随になって
る場合もある。選挙の制度すら今
は不正が横行し旧勢力が活動して
いる。

代の分が分化する区層の分層別地域
的経済的分劃者での組織に
層節の道でもあるが、その国圏
大きくてある場合もある。都市
行からの国よ圏内の人の生活
開劃者での民族に接ついては大体
関係の中から出てくる。一般都市は円滑
大きな側壁である事は明らかの
ものである。

一月四日

方法

統治組織を次の過程として

組織を把えんとした

統治活動の特殊より

国内の人々の関係の処理の一切

殊における国組織の作態

完結化等

統治文化の日本的個性しか今盛に深ばれる

「近代国家の国民組織

余は家族、東洋諸民族の次の記録的特徴と

これあるか、都市々都市帝制限りなる

の認識から。

日本は僕からは一統の日本へ考へられ損はる

如は日本人意識

我徒は帝国国家の発展と国家絶対の忠誠

世界国家聯邦の夢

国民社会学原理　名前決定　二九、八、八

第一章　○　生活構造（[illegible]）

第二章　生業と活動の組織（[illegible]）

第三章　国民と人口の整序（[illegible]）

第四章　国家統治組織（都市　[illegible]）

第五章　国民の社会構造（生活）

第六章　日本国民の社会意識（[illegible]）

第七章　国民の分化と対立（[illegible]）

第八章　国民生活の発展と其の方向

躍進か破滅か

日本的成長方式

生業に準ずる活動に就て

る[illegible]（生活）は生業に準ずる生活であって所有機関を[illegible]形成して[illegible]か、その様な生業に準ずる一般的活動には出来る。その為の機関を編成して成すべき要素と成り得る。生業関係が自然発生的に生じ協和形成の生産[illegible]して取扱はれ、またしばしば一の生業の低次生業活動と見る可くで、これらの団体の活動は本来生存形成の機関となるは当然である。

即ち関係者の会議組合は準校・準・農業協同組合論的と見る

が生ずる。前者は純粋な機関で有り、後者は基本的にいえば主として生産活動を本務とする機関であるが、世の通は運営活動が多くなるにつれて運営活動の本務としての機関は年と共に増加して来ている。之れ等は生活擁護集団の活動の本務であるが、一方企業と生活擁護集団活動と区別がたい場合もあり得る向きもある。

アマチャー競技団の本務とアマチャー詩人団の本務が一寸それている場合もあり得るである。こんな例のが増加して行

く傾向があると思って居ります。難いは大人は少しづつ生活の中から大出来つしずかに計画的に考へさせ小つにぜりはしめたな、また生業本位でし生業の整備丈で精一杯の時代が到あつていつゝあると思はれるのである。

八二一七、

生活全部或いは優れた作家
こんな方法で学んでいる人間にとって何が最
も[illegible]
[illegible]所[illegible]優れた作[illegible]は一[illegible]
て[illegible]人から[illegible]
は[illegible]
生命[illegible]合[illegible]は[illegible]
かしこの[illegible]
要する。[illegible]は今日の[illegible]
高くない[illegible]
一切の[illegible]
て[illegible]
て来る。

馬事公苑に遊ぶの記

敏雄君と道子に誘はれて晴天の昼過ぎから新橋の商科のアパートより馬事公苑に行った。今オリンピックの準備の為に何大きなスタンドがボールがすい所に有る鉄筋コンクリートの建物を建造中の為に入口も仮設の小門で大工等で荒されていた。

場内には馬の調練場や競馬場がありその外周の林の自然に変化があってそれが春秋の季節によってとりどりのすがたを見せ [illegible] が植えつけてあり石が飾られてある草の上へ此処に二か所の花壇の在花の生垣へ話しあった。

日本が国家的統一の始めに騎馬民族の来寇の説や兵器としての馬の価値が明治時代を迎えて近代の汽車や自働車の発達によって馬は漸次価値を失い去った。第二次世界大戦には軍馬は精悍俊敏さの為必要として主として用いられ、作戦のためや大砲の牽引などには少し用いられた位である。然し戦馬による大砲の牽引は米国などでは用いられずして自働車が馬に代っていたためこの点では日本の兵力は米国より劣っていた。

もう日本が馬種の改善の為にに大きな犠牲を伴う時代はすぎ去った。競馬は学

なるスポーツではなく色々の改善の為か
かつて口宗は巨大な金を用いてこの奨
励にあたって来たけれど今となっては無理
の改善も競馬も口宗は[illegible]
[illegible]は多くなっている。競馬場へ金を
出すのは一種のスランかセーの場所代
の収入をあてにする~~自~~地方自治体の
不当な行為である。口宗はもう競馬
場とは縁をたつべき時は過ぎている。
今日は都市の真中にこれ程広大な
土地の要する施設があるのは明らかに不合
理である。しかしオリンピックをひかえるにし
大建造物（あれかクラブか、厩舎場か其の

総合が」を造るのは当然に必然であるか、の合目的である。オリンピックの競馬に用いられる競馬が主人に手を入れられるよう合併するか、今更ら「コンクリートの大量生産物を造る必要は有るまい。思うにこれも日本的常道の一つの性格を示しているもので、不[illegible]必要になった旧体態制れ存続出来るのは存続させようとするも

ので、あれ程軍の力によって発展されていた馬の育成する事に関していた団体や機関や個人は甚だ多数あったとすればそれが其の人に由か軍馬の動力化的のかならず兵力の動力化の時代になった今は其の存在をつづけて行くための方便は